

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
22002	X-01-A-1-220025	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	基礎	選択	1年	
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース				
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×	
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×	
				【1年次生】経営情報学部経営学科	基礎	選択	1年のみ	
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	基礎	選択	1年のみ	
ファシリテーション実践論 2	佐々木 寛 山田 裕 史			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×	
		【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×			

授業目的

共通科目「ファシリテーション概論」や「国際交流ファシリテーター1・2」が、ワークショップやファシリテーションといった新たな方法との「出会い」であるとすれば、本授業はその「応用」と「発展」を目指します。すなわち、「ファシリテーション概論」や「国際交流ファシリテーター1・2」があくまでも教員からきっかけを与えられて取り組む授業なのに対して、本授業は学生自らが問題意識に沿って、それぞれのファシリテーションの内容を深めることを目標とします。

問題の所在を自分たちで見つけ、その問題を解決するための方法も自主的に探究するという、新しい形式の授業です。学外講師の招聘に関しても、できるだけ履修者の要望を反映させます。

さらに本授業では、履修者が多種多様なファシリテーションの技法とワークショップを経験することにより、ファシリテーションとワークショップの広範囲な技術を獲得することを目指します。

また、ディプロマポリシーとの関連では、この授業は国境を越えた個別具体的問題への認識を深める国際教養の体得に資するものと位置づけられます。

各回毎の授業内容

<p>第1回 【授】イントロダクション：ワークショップとは？（授業の進め方と講義）、アイスブレイク、自己紹介 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。</p> <p>第2回 【授】教員によるワークショップ（非暴力トレーニング） 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。</p> <p>第3回 【授】国際交流ファシリテーターによるワークショップ 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。</p> <p>第4回 【授】招聘講師によるワークショップ① 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。</p> <p>第5回 【授】グループワーク（前回のワークショップの振り返り） 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。</p> <p>第6回 【授】招聘講師によるワークショップ② 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。</p> <p>第7回 【授】グループワーク（前回のワークショップの振り返り） 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。</p> <p>第8回 【授】招聘講師によるワークショップ③ 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。</p>	<p>第9回 【授】グループワーク（前回のワークショップの振り返り） 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。</p> <p>第10回 【授】招聘講師によるワークショップ④ 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。</p> <p>第11回 【授】グループワーク（前回のワークショップの振り返り） 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。</p> <p>第12回 【授】ワークショップづくり① 【前・後】【必要な時間：4時間】各グループでワークショップ作成の準備を進めること。</p> <p>第13回 【授】ワークショップづくり② 【前・後】【必要な時間：4時間】各グループでワークショップ作成の準備を進めること。</p> <p>第14回 【授】ワークショップ発表① 【前・後】【必要な時間：4時間】各グループでワークショップ作成の準備を進める、または振り返りを行うこと。</p> <p>第15回 【授】ワークショップ発表② 【前・後】【必要な時間：4時間】各グループでワークショップ作成の準備を進める、または振り返りを行うこと。</p> <p>第16回</p>
---	---

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

出席、授業における各グループのパフォーマンス、グループ内での各個人のパフォーマンス、期末レポートによって評価します。ワークショップに対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。

教科書参考書

青木将幸『リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイクベスト50』ほんの森出版、2013年
 石川一喜・小貫仁編『教育ファシリテーターになろう！：グローバルな学びをめざす参加型授業』弘文堂、2016年
 ちよんせいこ『人やまちが元気になるファシリテーター入門講座』解放出版社、2007年
 中野民夫『ワークショップ：新しい学びと創造の場』岩波新書、2001年
 堀公俊『ファシリテーション入門（第2版）』日本経済新聞出版社、2018年
 ロバート・チェンバース『参加型ワークショップ入門』明石書店、2004年
 その他の書籍は授業中に紹介します。

受講に当たっての留意事項

前前期開講科目「ファシリテーション概論」の単位を取得済みであることが望ましい。
 国際交流ファシリテーターを目指す学生は必ず履修してください（必修科目）。
 自分でテーマを見つけ、リサーチをして、講師の話聞いて、それを自分たちのワークショップにいかします。そして、そこで学んだことをレポートにまとめます。積極的な学生の履修を期待します。

学習到達目標

本授業では、新たな知識の獲得や問題発見の技術を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力及び実践的な学力の向上を目指します。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習